

【一日目】机上講座 2016 年 9 月 3 日（土）カルタスホール

講師 三郷山の会 八木原 健一 氏

地図の読み方に入る前に、山岳遭難状況の説明がありました。遭難者の約 4 割が道迷いとのこと。遭難事例として 1963 年の愛知大学山岳部の薬師岳遭難、2003 年の房総・麻綿原高原の 2 例が紹介されました。2 例とも道迷いが遭難の原因で、地図を正確に読むことの大切さを痛感しました。

地図の読み方講座では、主に以下の点を学習しました。

1. 地図の種類

国土地理院発行の地形図、昭文社の山と高原地図に代表される登山地図とその特長

2. 地図の記号

普段見慣れている記号の他に、滝、堰、送電線等、登山時に役立つ記号がありました。

植生記号でハイマツ地があり、登山者のためにある記号のようで面白く感じられました。

3. 等高線

等高線を何本かなぞって書き込んでいくと、山の形が具体的に見えてくるようで、良い練習になりました。

4. 磁北線

緯度により字北線の偏差角度は決まっており、計算で求められるとのこと。

タンジェント数地表から該当する緯度の偏差角度を参照し計算すればよく、簡単に求められることが分かりました。

5. コンパスの合わせ方

第 1 回の「計画から下山まで」でも学習しましたが、すぐ忘れてしまいます。登山の都度、使うよう習慣づけたいものです。

6. 地図の折りたたみ方

国土地理院の 2 万 5 千分の 1 をさっと開けるようにする折りたたみ方を練習しました。地図面の真ん中を山になるように折る際に、山折部が低くなるように折るのがポイントです。

7. 概念図の作成

地図に尾根を赤で書き込み、沢を青で書き込んでいくと、無味乾燥な地図から色々な情報が浮かび上がってくるようで面白いです。翌日の実技山行で馬仏山からの尾根を下る際に、尾根の見分け方の大切さを実感することになりました。

8. 断面図

高水三山の断面図を作成。等高線が狭いところが急であることは理解していますが、視覚的に確認しました。

9. 地図アプリの紹介

YAMAP、スカイビュー、山っぷ等の地図アプリの紹介。常々使ってみてみたいとは思っているものの、どのアプリが良いのか分からずそのままになっており、参考になりました。

【二日目】実技山行 2016年9月4日（日）高水三山 曇りのち晴れ

二日目は、奥多摩の高水三山で実技山行を行いました。

1. コースタイム

青梅線軍畑駅 9:32 ~ 平溝橋分岐 9:45 ~ 高源寺登山道入り口 10:06 ~
沢からの登り 10:37 ~ 尾根 10:56 - 11:13 ~ 高水山山頂 11:53 - 12:25 ~
コル 12:38 ~ 巻道との分岐 12:47 ~ 岩茸山山頂 12:56 - 13:07 ~
馬仏山山頂 13:34 ~ 惣岳山山頂 14:01 ~ ヘアピンカーブ 14:41 ~
沢井駅分岐 15:03 ~ 沢井駅 15:30

2. コメント

ポイントでコンパスを振り、所々地図と実際の景色を見比べながら歩きました。

平溝橋を過ぎたあたりで送電線を確認。地図では鉄塔は分かりませんが、送電線が折れているところは鉄塔があるとの説明に、成程と納得しました。

登山道に入ってすぐの地点で、堰を確認。堰の上に水は溜まるので2本の短い線が上、滝は下の滝壺に水が溜まるから線の下に点が二つとなったようです。

沢からの尾根までの急登は、昨日断面図を作成する時に確認した通りで、尾根まで出ればアップダウンはあっても緩やかな道になると思いながら、登ります。

尾根から高水山までは、尾根を歩くのではなく、最初は尾根の左を、途中からは尾根の右をトラバースしていることを地図で確認しました。

岩茸山の山頂では、棒の折山、雲取山（これは見えたつもり）から現在の位置、他の山を特定する見方を教わりました。

馬仏山の山頂から尾根道に戻る際に、道がはっきりしなくなりました。右の方に道らしきものがあります。左の方には道らしいものはないのですが、その先にははっきりとした道が見えます。右の方がなんとなく正しいように思われます。講師の山口先生に地図で確認するように言われ、地図を見ると、小さな尾根が2つあり、右は沢で行き止まり、左は登山道に通じており、左が正しい道でした。今回は練習なので間違えても構いませんが、雪山や藪こぎでは遭難になりかねないと地図読みの重要性を実感し、大変貴重な体験をしました。

雨の予報は外れ、午前中曇りから午後は晴れ間の覗く天気となりましたが、大変蒸し暑く、大汗を掻きながら歩くことになりました。そのためか体調を崩した人もいました。高水三山は奥多摩の初心者向けのコースとされていますが、どんな山でも状況によっては厳しくなることが有り得ると勉強になりました。

以上

第 21 期登山学校

第 4 回 『地図の読み方』講座

2 班 佐藤 守彦

【机上講座】

日時・場所／9 月 3 日(土) 9:30～16:30 ・北浦和カルタスホール

講習内容／山岳遭難の概況～道迷いの原因～遭難事例

地図読みの基礎-地図の種類～地形の特徴～等高線～磁北線～コンパスの使い方

感想

登山にはがリスクが伴うということを再認識し、安全に登山ができる知識の一つとして地図読みが大切であると強く感じました。

地形図からはさまざまな情報を詳細に読み取ることができ、山行計画を立てる時から現在地の確認・目的地の方向の確認・これからの地形の状況確認など、山行には必ず身につけなければならない知識であり今回の講座をもとに常にスキルアップが必要と認識しました。

【実技講習】

日時・場所／9 月 4 日(日)・奥多摩高水三山

天候／くもり(小雨が降ったり、薄日が差したりと湿度が高く感じられた)

実技内容／班ごとに運営委員による地図読み/プレートコンパスを使つての整地・進路確認

行動記録／~~奥~~軍畑駅 9:30⇒9:45①平溝橋分岐 9:50⇒10:08②高源寺登山口 10:15⇒10:40③沢からの登り 10:42⇒10:54④尾根に乗る 11:10⇒11:35⑤高水山山頂/昼食 12:36⇒12:39⑥高水山から 2 個目のコル 12:46⇒12:50⑦巻道との分岐 12:57⇒13:09⑧岩茸石山山頂 13:36⇒13:39⑨馬仏山 732 ピーク 14:02⇒14:10⑩惣岳山山頂 14:42⇒14:45⑪ヘアピンカーブ 15:09⇒15:07⑫沢井駅方面への分岐 15:09⇒15:35⑬沢井駅到着

ポイント①～⑬地点での高度測定と目的方面への地図振り及び整地・地形図と実際の地形の状況確認。

感想

今回の地図読み講習会は道迷いに遭わないために必要な知識であり非常に興味を持って受講いたしました。

前日に学習した地形図/等高線の読み方をもとに、各ポイントで実際の状況が地形図ではどのように表されているか、またその逆はどうなのかを何度も確認することにより地形図を見ただけである程度実際の状況を把握する事が出来るようになりました。

プレートコンパスの使い方についても何度も練習を繰り返すことにより、実際の山行では意識しなくてもスムーズに操作できるようになりました・・・!?

第21期登山学校 第4回「地図の読み方」 記録中川 昌行記

机上講習：2016年9月4日(日) 1、地図の基礎知識／2、コンパスの使い方／3、地図の折りたたみ方／4、磁北線の引き方／5、概念図、断面図の作り方

実技講習：2016年9月4日(日)

天候：曇り後晴れ第1班参加者：河本さん、田口さん、峯村さん、山下さん、中川

登山学校運営委員；高橋さん、高野さん／集合：JR奥多摩線 軍畑駅 9:15

コースタイム：軍畑駅 9:30→10:06 高源寺 10:12→(昼食)12:17 高水山 12:24→12:57 岩茸石山→13:36 馬仏山 13:38→14:06 惣岳山 14:09→15:25 頃沢井駅

記録：家を出る時は、雨だったので憂鬱な気分です予定通り出発。

JR 青梅線の軍畑駅では、かろうじて雨は降っておらず、とりあえず合羽は無しでスタート出来そうだったのでホッとした。今回のテーマは、「地図読み」で役割担当が記録のため、コンパス・コースタイム・高度をポイント毎に地図に記録していく。いつものストレッチをしてスタート。鉄塔・川・尾根・谷を確認しつつ進む。アスファルトが終わったあたりから非常に蒸し暑くなってくる。川に沿って歩くところから尾根に向かった登り始めるところで、別の班の女性が、熱中症らしき症状になった。我々の班の高野運営員が、救護も兼ねているため、班から離れて彼女の救護に。尾根まで上がったところで、運営委員らが遅れている生徒をどうするか話し合いが行われていた。運営委員が、再確認に行くと同時に、高水山に向かって登り始める。地図を見ながら周りの状況を話してくれていた高野運営委員はいないので、通常の登山になった。高水山の常福院の東屋で、昼食。少し明るくなってきたので、みんなで天気がよくなることを祈りつつ出発。高水山を越えて、岩茸石山へ向かう途中で、もう一人の高橋運営員も根っ子に足を引っ掛ける回数が急に増え、顔を手でたたいていて、なんだか様子がおかしい。話しかけると水を全部飲み干した様子で、ペットボトル1本を渡す。軽い熱中症のようで、声をかけながら岩茸石山へ進む。ここで、地図読みの講師から地図からどうやって山を見るかの講習を受ける。少しずつガスが晴れてきて、棒ノ折山や町もきれいに見えていた。巻き道との合流点が、次のポイントで、道標はあるが、登山学校のポイント表示が見つからない。後で聞いたら追加したところは、表示がなかったとのこと。前の班に続いて馬仏山を目指して、登山道を離れて登るが、別の小さなピークだったようで目印のポイント表示は見つからず。ここも表示がないのかと思いきや、目指すピークではなかった。運営員は、「どのピークに上るのか知らないのか？」と疑問に思いつつ進む。登山道に戻って、次のピークが現れ、今度はあっていたようでポイント表示があり、馬仏山と書かれた小さな道標を確認。ここからの登山道に戻る少し急な下りで、前に行く班が戻ってくる。トラバースしやすいところを探していたようだ。登山道との合流点で、救護にいていた高野運営員と合流。体調が悪かった女性と軽い捻挫をした女性も途中下山せず巻き道を使いながら、登山を続行していた。その後、岩登りのようなところを登り、惣岳山へ到着。ここでは、青梅市の高度基準点があることを確認。これは、何に使うのかなと疑問に思いながら下山開始。ここからは、非常に滑りやす道となり、何名かは転びながら下山。

ちょうど舗装路に出るあたりで、熱中症になっていた高橋運営員も回復してきたようで、我々に追いつき一緒に沢井駅に下山。このころには、天気もすっかり回復して、湿気もなくなり、朝の天気が嘘のようでした。疲れか、ホッとしたためか駅に到着した時刻を記録し忘れた。また、熱中症は、こんな風になるのか目の当たりにし、貴重な経験でした。

以上

9月4日(土) 北浦和カルタスホールにて 講師 八木橋先生 講習を受けた。

山での遭難者のグラフや表で増加していること。 昨年は 埼玉県 62件

40歳を超えた60歳以上が多い。道迷いの原因 準備不足 地図やコンパス 下見なし GPSの電池切れ

古いネット情報など。

天候が急変 ホワイトアウト、藪に迷い込むなど状況判断単独で行くと、2.3倍事故にあう。

道迷いの原因 標識が倒れていたり、古くて、文字が見えない。そうした中で、見過ごす。

どれが本来の道か、わからなくなる。

体力がないのに、無理な計画。迷ったら、沢に下りずに尾根を登る。常に地図を持参する。

地図に磁北線を引きコンパスを平行にあわせる。 地図を折りたたみ方を覚える。概念図・断面図の作り方を覚える。 YAMAP等の紹介

9月5日(日) 台風情報で 天気が悪いと聞いていたが、家から駅に向かう途中、土砂降りになる。ホントに今日は決行するのかと思って 段々不安になってきた。 晴れ女、男?!のお蔭で 軍畑駅に着いたら雨は止んでいた。 運営委員 挨拶 準備体操 各班に分かれて コンパスを振って方向確認/軍畑駅 9:31 標高250m

①平溝橋分岐 9:48 標高250m

②高源寺 登山道入り口 10:07 標高300m いよいよ登山 湿気が多く、息苦しい

③沢から登りはじめ 10:40 標高450m 途中で堰 水を触りたい

④尾根を登る 10:55 標高560m 針葉樹林 3班の仲間入り お世話になる<(_ _)>

⑤高水山頂 12:25 標高759m お昼

⑥高水山から2個目のコル 12:38 標高730m

⑦巻道との分岐 12:50 標高740m

⑧岩茸石山頂 13:00 標高793m 三角点の標石

⑨馬仏山 13:10 標高723m

⑩惣岳山頂 13:40 標高756m

⑪ヘアピンカーブ 14:15 標高550m

⑫沢井駅方面への分岐 14:50 標高380m

⑬沢井駅 15:10 標高240m

実技を終えて 総評 整理体操 口の中が山椒の香りに(味)に包まれて 帰宅。

運営委員の先生方の細かい ご指導のお蔭で 事故・怪我もなく終わりました。

ありがとうございました。次回 岩登りもよろしく願いいたします。